

航空路再開から佐渡空港2千メートル化実現へ

令和6年度以降にトキエアが佐渡空港に就航した際には、多くの皆さんから佐渡空港を利用していただくことが、滑走路2千メートル化に向けた原動力となります。

佐渡空港の滑走路2千メートル化新航空路の開設

佐渡空港路線の利用促進

より安定した運航と機材の大型化も視野に、引き続き滑走路2千メートル化に取り組む必要があります。

佐渡空港路線の就航

令和4年度 佐渡新航空路開設促進協議会 主な活動内容

講演会の開催

令和4年7月22日(金)に新潟航空サービス㈱から西沢執行役員様を講師に招き、新潟空港の事例をもとにコロナ禍と地方空港などについて、当協議会員を対象にご講演いただきました。



トキエア㈱との意見交換

令和4年11月17日(木)に新潟空港にて、トキエア1号機を視察後、トキエア㈱の小出CFO(最高財務責任者)様から事業進捗状況についてご説明いただき、意見交換を行いました。



イベントでの宣伝活動



令和4年9月23日(祝・金)
佐渡空港において「空の日」記念イベントに参画し島民の機運醸成を図りました。
来場者数 約700人



令和4年11月3日(祝・木)
両津夷商店街においてリョウウツ・デ・フリマに参加し佐渡空港拡張整備などのPRをしました。空港クイズ 解答者84名(正解者72名)※正解者の中から抽選で10名に粗品(空港グッズ)を進呈

佐渡空港の2千メートル化と新航空路開設に向け、引き続き努力します。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

つなげよう滑走路2千メートルへ!!

佐渡新航空路開設促進協議会 事務局：佐渡市観光振興部交通政策課 〒952-1292 佐渡市千種 232 番地
☎ 0259-63-3184 / FAX 0259-63-5125 ホームページ <https://s-kuko2000.com>

朱鷺と共に羽ばたく未来へ



～島の未来へテイク・オフ～
Take off for the future of the SADO Island



飛翔

Vol.20

令和5年3月発行

夢・希望・可能性 明日の空へ
佐渡新航空路開設促進協議会

空路に秘めた可能性・・・佐渡の活性化には空路が必要です。



新潟発祥の地域エアライン 「トキエア」が採用！ 環境に配慮し日本の空をつなぐ ATR 機

新潟発祥の地域エアライン「トキエア」が、小型旅客機の代表格であるATR社のターボプロップ機を導入することになりました。短い滑走路でも運航可能なATR機は、佐渡空港で飛ぶことができます。令和6年度以降に予定されている佐渡空港の就航に先立って、ジェット機に負けない魅力がたっぷりのATR機についてご紹介いたします。

ATR 機は、2 カ国の共同事業が生んだ 最先端のリージョナル機

ATR 社はフランスのエアバス・グループとイタリアのレオナルドの共同事業体として 1981 年に設立され、最先端の双発ターボプロップ旅客機を全世界の 200 を超えるエアラインに提供しています。生まれ故郷は南フランスにあるトゥールーズ。トゥールーズといえば、バラ色の街、学生の街、ラグビーを愛する街、そしてヨーロッパにおける航空産業の大拠点です。エアバスの本社やフランスの国立航空宇宙大学院大学 (ISAE-SUPAERO) も同じトゥールーズに集結しています。



南フランスにある ATR 本社

CO₂ を最大 45%削減して空と人をつなぐ



ATR 社のモットー「into life」は、「すべての人々をつなぐ」という企業理念を表しています。世の中にはジェット機ではアクセスできない空港がたくさんありますが、小回りがきくATR社のターボプロップ機なら、離島や短い滑走路の空港でも運航が可能です。また、同サイズのリージョナルジェット機と比べて CO₂ の排出量が 45% 少なく、地域の美しい自然を守りながら責任のある飛行で人々やビジネスをつなげます。

プロペラによる燃費向上と体に優しい客室高度

ATR 機の最大の特徴は、ぐるぐる回るプロペラです。長さ約 2 メートルある 6 枚のプロペラは、回転することによりジェットエンジンの効率を上げ、燃費を向上させるという大事な役割を担っています。

また、ATR 機は運航高度が低いという特徴もあります。リージョナルジェット機の巡航高度は約 10,000 メートルで、客室高度は 2,200 メートル、富士山の 5 合目にあたる高度です。これに対して ATR 機の巡航高度は 6,100 メートルで、客室高度は約 1,200 メートル、軽井沢の標高と同じくらいです。そのため、頭痛・耳鳴り・疲労感などの身体的負担が少なく、また運航高度が低いので、機窓から美しい眺めを望むことができ、快適な空の旅を楽しめます。



トキエアが日本初導入！

ATR 社の STOL 機とカーゴフレックスオプション

ATR 社の航空機ファミリーには、標準型の ATR 42-600 機 (48 人乗り) と ATR 72-600 機 (72 人乗り) のほか、短距離離着陸型機である ATR 42-600S 機 (S=STOL、Short Take-off and Landing の略) があります。ATR 42-600 機を改良して必要離着陸距離をわずか 800 メートルへと短縮することに成功した STOL 機は、ATR 42-600 機と同じパイロットや整備士で運航できるため、エアラインの負担を最小限に抑えながらより多くの空港へのアクセスを可能にします。トキエアは、890 メートルの短い滑走路を持つ佐渡空港への就航を叶えるために、日本初の ATR 42-600S 機の導入を決定しています (注 1)。さらにトキエアは、ATR 72-600 機の客室の一部を必要に応じて貨物コンテナに置き換えることができるカーゴフレックス方式を日本で初めて採用します。定員を 72 人から 44 人に減らすことにより、旅客の増減に合わせた柔軟な対応を実現し、事業のサステナビリティにつながっていきます。

注 1：トキエアに導入される ATR42-600, ATR42-600S は 46 人乗り仕様です。

ATR社のホームページもぜひ御覧ください。
<https://www.atr-aircraft.com/jp/>

